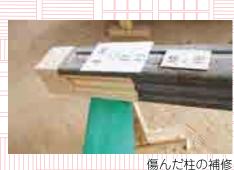
「旧吹屋小学校校舎」平成~令和の大修理!

一 令和 4 年 4 月一般公開への道のり 3 一

材料を補修・加工しながら校舎再構築へ

解体しながら木材や瓦などを調査すると、そのまま使用できるもの や、傷んだり壊れたりしたものが出ます。文化財の歴史的価値をでき る限り保存するために、補修で済みそうな木材は、元の材を残し、傷 んだ部分だけを取り除いて新材で補いました。取り替えや新しく補っ た材には修理年号の烙印を押して、将来区別できるようにもしました。 一方、どうしても取り替えなければならないものは同様の素材で復元 します。石材は同等の石を用意し、瓦は典型的な瓦をもとに新たに制 作しました。



また、割石積布基礎の上に置く 木製の土台を、石の凹凸に合わせ て加工する「光イけ」も行いまし たが、これはかなり手間がかかり ました。こうして、ようやく建物 の再構築の準備が整いました。

(次回へ続く)



光付け作業



型取りによる土台調整

間社会教育課☎ 21-1516

べんがら あかがね

「ジャパンレッド | 発祥の地 - 弁柄と銅の町・備中吹屋 - ①

日本遺産に認定された「『ジャパンレッド』発祥の地―弁柄 と銅の町・備中吹屋一」のストーリーを構成する文化財を紹介 します。

「銅栄寺 | 未指定記念物(遺跡地)

劉栄寺は、吹屋の町並みから旧吹屋小学校へ向かう切通しの右斜面上に位置 し、本堂と墓所が所在します。地元の伝承によると、かつては「観音堂」と呼 ばれたようですが、明治時代中期頃に吉岡銅山の鉱山長が銅山盛業を祈願し繁

栄したことから、「銅栄寺」と称される ようになったとのことです。

令和3年に、戦時中の金属供出を免 れた同寺の梵鐘が発見され、鋳造後に 陰刻されたと考えられる「吉岡鑛山」 の文字と三菱のマークが確認でき、銅 山とのつながりを示してい

ます。



銅栄寺



問高梁市日本遺産推進協議会事務局(日本遺産・歴まち推進室) ☎ 21-0257